

最近の活動状況

[主として 2010 年の第 4 回総会(名古屋)以降]

仙台フィルハーモニークラブ (SPC)

1. 「SPC 設立 15 周年記念パーティ」開催

2010 年 9 月 23 日に設立 15 周年を迎えたのを記念し、同年 11 月 20 日(土)、仙台フィル第 251 回定期演奏会二日目終演後にパーティを開催した。会員、正指揮者、楽団員、来賓など多数が参加して大盛会となった。

2. 「SPC シート」創始

設立 15 周年を記念して 2010 年度に創始。SPC の「5 つの目標」の中の 5. = 「仙台フィルのファンの拡大に努める」を、より具体的かつ直接的に推し進めようとするもの。3 つの定期演奏会に 2 席ずつ、計 6 席分のチケットを SPC として購入し、応募者に抽選で贈呈した。予想以上の応募があり、仙台フィル事務局及び楽団員からも歓迎され、地元紙でも取り上げられるなど話題性も高いため、できれば規模を拡大しながら今後も継続実施して行きたい。

3. 恒例行事

○「おもしろセミナー」

第 19 回となる「NESTOR RODRIGUEZ & HENRI TATAR」(11.2.12)を開催。二人のヴァイオリン奏者、エルサルヴァドル出身のロドリゲス氏とスロヴァキア出身のタタル氏が、日本語のトークを交えながら魅力的な演奏を披露し、聴衆を大いに楽しませた。

ちなみに、タタル氏は O E K 首席チェロ奏者のト ヴィート・カンタ氏とは同郷の親友同士であり、しばしば共演している。

○「茶話会」

仙台フィル定期演奏会二日目(土曜日・マチネ)終演後、青年文化センター内カフェレストランの一角を使って

08 年 5 月より継続開催中。会員、楽団員、時には山響ファンクラブ会員など、毎回十数名程度の参加者が、演奏の余韻を背景に自由な会話を楽しんでいる。後述する「演奏活動賛助金」の贈呈や楽団員との連絡・打ち合わせの場となることもある。

4. 「演奏活動賛助金」の贈呈

多忙なスケジュールの中、コンサートを自主企画して研鑽に励む団員を、いくらかでも応援したいとの素朴な動機で 02 年に贈呈を開始した。最近では次のコンサートが対象になった。

- ・第 19 回…「MASAYA TAKEUCHI PERCUSSION MESSAGE」(10.6.9 開催、同 9.18 贈呈)
- ・第 20 回…「小池まどかヴァイオリンリサイタル」(10.9.23 開催、11.1.22 贈呈)

5. 会報『PHILHARMONY CLUB』とその号外『SPC 通信』の発行

両刊行物とも 1995 年の創刊以来継続発行し、現在、会報(年 3 回発行)が vol.49、通信(ほぼ毎月発行)が vol.177 に達している。双方とも全号が「宮城県図書館みやぎ資料室」に収蔵され、常時閲覧可能となっている。

今後への展望

東日本大震災によって、団の存続にもかかわるような深刻な状況に陥った仙台フィルであるが、これに屈することなく「音楽の力による復興センター」事業※を立ち上げて自ら存在感を示し、このオーケストラが今後この地域にとって不可欠な存在であることを訴え続けた。これには地元のみならず全国、さらには海外からも温かい支援が寄せられ、我々 SPC も“チーム復コン”の活動や上記「復興センター」への寄付などで協力した。

これらの熱意が実って 7 月に青年文化センターが再開館し、とりあえず定期演奏会ははじめ仙台フィルの自主公演だけは再開された。しかし、他の主要ホールの復活のめどが立たない現状では依頼公演などの企画がなく、当分の間“片肺飛行”とならざるを得ない。そして何よりも、津波に直撃された被災地が復興するまでには長い年月が残されている。このような状況下、SPC に何が求められて何が可能なのか、現実を見据えながら模索して行きたい。

※街頭、被災地、避難所を直接訪問して、無料のコンサートを行う。

[2011 年 9 月 17 日]